

## <白鳥の湖>

作曲 チャイコフスキー

1877年3月4日 モスクワ・ボリショイ劇場バレエ団が初演 初演は不評 そのまま封印  
作曲者の死後2年を経た 1895年1月15日 サンクトペテルブルク・マリインスキー劇場  
バレエ団が蘇演 して価値を認められる。

### 登場人物

オデット姫（昼の間は白鳥に変えられてしまう魔法にかけられてしまう 主役）

ジークフリート王子

オディール（悪魔の娘だが、上演の時はオデットと一人二役）

ロットバルト（オデットを魔法にかける悪魔 オディールの父）

女王（ジークフリートの母親）

ジークフリートの家庭教師

ジークフリートの友人

ジークフリートの花嫁候補達

ジークフリートの友人

オデットの仲間の白鳥（人間）達

このDVDではロットバルトは悪魔の姿と人間の姿ででてくるが、二人一役となっている。

### あらすじ

#### 序奏

オデットが花畑で花を摘んでいると悪魔ロッドバルトが現れ白鳥に変えてしまう。

#### 第1幕

##### 王宮の前庭

今日はジークフリート王子の21歳の誕生日。お城の前庭には王子の友人が集まり祝福の踊りを踊っている。『ワルツ』そこへ王子の母が現われ、明日の王宮の舞踏会で花嫁を選ぶように言われる。まだ結婚したくない王子は物思いにふけり友人達と共に白鳥が住む湖へ狩りに向かう。『情景』

#### 第2幕

##### 静かな湖のほとり

白鳥たちが泳いでいるところへ月の光が出ると、たちまち娘たちの姿が変わっていった。

（『通常はここで情景』この DVD では第2幕へのつなぎの部分と一緒にしている）その中でひととき美しいオデット姫に王子は惹きつけられる。（白鳥の仲間の踊り、デュエット、『四羽の白鳥の踊り』）彼女は夜だけ人間の姿に戻ることができ、この呪いを解くただ一つの方法は、まだ誰も愛したことのない男性に愛を誓ってもらうこと。それを知った王子は明日の舞踏会に来ようオデットに言う。

### 第3幕

#### 王宮の舞踏会

世界各国の踊り（『ハンガリーの踊り』）が繰り広げられているところへ、悪魔の娘オディールが現われる。王子は彼女を花嫁として選ぶが、それは悪魔が魔法を使ってオデットのように似せていた者であり、その様子を見ていたオデットの仲間の白鳥は、王子の偽りをオデットに伝えるため湖へ走り去る。悪魔に騙されたことに気づいた王子は嘆き、急いでオデットのもとへ向かう。

### 第4幕

もとの湖のほitori（この上演では『フィナーレ』の間にデュエットがはいっている）

破られた愛の誓いを嘆くオデットに王子は許しを請う。そこへ現われた悪魔に王子はかなわぬまでもと跳びかかった。激しい戦いの末、王子は悪魔を打ち破るが、白鳥たちの呪いは解けない。絶望した王子とオデットは湖に身を投げて来世で結ばれる。

メッセレル版以降、オデットの呪いが解けてハッピーエンドで終わる演出も出てきたが、原典とは異なる。

### 主要曲

#### 序奏

○ワルツ [第1幕]

○情景 [第2幕]

○四羽の白鳥たちの踊り [第2幕]

王子とオデットのグラン・アダージョ [第2幕]

○ハンガリーの踊り（チャールダーシュ） [第3幕]

ナポリの踊り [第3幕]

○終曲 [第4幕]

など